

本日の為替見通し

ポイント

「ギリシャは救済条件である国有資産の民営化が遅れて公約を実行できず、救済資金のほとんどは無駄になった。国有資産 500 億ユーロの売却合意に達成したのは 10 億ユーロだけで、実行というものが欠落している」、ポリ・スウェーデン財務相の発言である。

「EU・IMF の代表団はギリシャに最低賃金を 20% カットするように求めた。ギリシャ労働省は民間セクター給与の支給額を 3 年間凍結する案を提出したが、トロイカは拒否し 2 回のボーナスの削減や廃止を求めた」、ギリシャ・タネア紙の報道である……。今後どうなるのであろうか！？

一夜明けて、30 日の EU 首脳会議の結果を振り返ってみれば、財政規律強化と、5,000 億ユーロ規模の恒久的救済枠組みで合意したことを市場は評価するプラス面と、第 2 次ギリシャ支援では各国の食い違いがあり合意できず、ポルトガルへの不安にもつながるマイナス面が見られた。

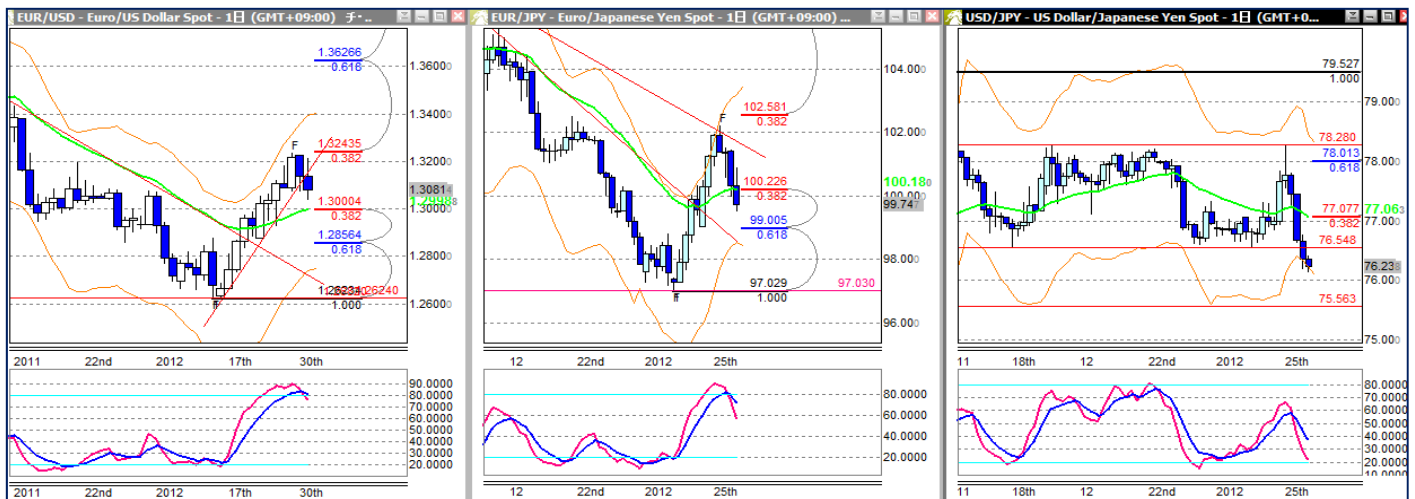
昨日の相場は、欧州時間では EU 首脳会議を評価したのかリスクアセットが上昇、株価は強く、債券相場も安定し、ユーロ・豪ドルは上昇し、原油・金価格は上昇する、リスクオンの流れとなった。しかし、米国市場に入ると、月末という特殊要因の可能性もあるが、ギリシャ・ポルトガルへの不安心理から、利食い売りへと誘い、これらはすべて反転し、リスクオンの流れとなった。

終わってみれば、EUR の一人負けの相場で、AUD、NZD は比較的堅調で、そして、経済指標の悪化に売りが強まった、CAD は意外にも終値ベースでは前日から上昇し、底堅さを感じられる。今後の相場は、ギリシャ債務削減交渉の行方に左右されると言っても過言ではないと思われる。

昨日発表された、ユーロ圏の失業率は 10.4% と 1998 年来の高水準となったが、アイルランド 14.5%、ハンガリー 10.9%、ポルトガル 13.6%、スペイン 22.9%、フランス 9.9%、ギリシャ NA、ドイツ 5.5% と、スペインの失業率の高さとドイツの格差が目立った。ちなみに、ギリシャ 10 年債利回りは 28.75%、ポルトガルは 14.94% で信じられない利回りの水準が長く続いている。

今日は、ADP 雇用統計の発表があり、3 日（金曜）の米雇用統計の前哨戦ともなり、注目され、アジア市場では AUD に影響が大きい中国の PMI の発表が控えている。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.2999、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=1.3394、DOPdn=1.2738。スロー・ストキャスティックは %K=76.20、%D=81.06 で、売り変化し、ベースは買われ過ぎゾーン。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 100.18、終値ベースでこの線を割り込んだ。DOPup=103.22、DOPdn=98.53。スロー・ストキャスティックは %K=56.27、%D=71.18、売りを継続し、ベースはやや買われすぎゾーンに位置している。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.06、この線を割り込み続落している。DOPup=78.46、DOPdn=76.23。スロー・ストキャスティックは %K=21.54、%D=37.56 で、売りを継続、ベースは売られ過ぎゾーンに入っている。

本日のCFD見直し

ポイント

イラン問題の火種を残しながらも、ギリシャ債務交換協議が決着されず、買い先行から利食いの売りにぶつかりながらの上昇となっている。中国はイラン産原油の輸入を削減している可能性が指摘され、原油相場は98~102ドルの間で比較的安定し、金価格は需要の増加に底堅く推移し、押し目では買い意欲が強い。

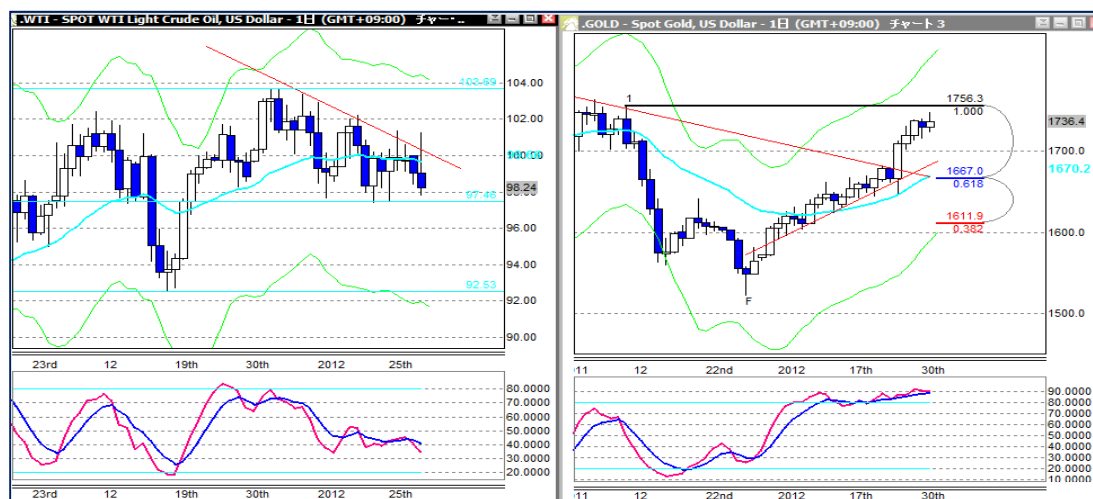
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは99.66で、この水準を中心としたそば展開が続いている。98~102のレンジ内での取りとなっているが、フラック・フォーメーションが続き、どちらかへ動き始める可能性が徐々に高まっている。上値のポイントは101.36、103.69。下値のポイントは97.46、92.53。

◎Spot.Gold

EMAは1670.22で上昇トレンドが続き、かい離幅が拡大し調整売りの可能性も続いている。日々の上昇幅は少なく典型的な上昇パターンに入っており、ストキャスティクスはサインを示さない。上値のポイントは1756.3、1814.54。下値のポイントは1687.8、1667~70。

マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 99.66、この線を終値ベースでは下回る展開が続いている。DOPup=104.44、DOPdn=91.97。スロー・ストキャスティックは%K=34.63、%D=40.40 で、不透明ながら売りの流れへ変化し、ベースニュートラルゾーンに近い。

Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1670.22、この線を下限に上昇している。DOPup=1814.54、DOPdn=1590.04。スロー・ストキャスティックは%K=90.04、%D=88.84 で、上昇トレンドの継続にはっきりとせず。ベースは買われ過ぎゾーンで引き続き推移。

2月1日(水曜日) 注目の経済指標 その他

発言・その他

19:15 ドイツ 10 年物国債入札

ポルトガル短期国債入札

01:20 バイトマン・ドイツ連銀総裁 講演

21:30 ブロッサー・フィラデルフィア地区連銀総裁 講演

注目の経済指標

中国 = 製造業 (中国国家統計局と中国物流購買部連合会) PMI

中国 = HSBC 製造業 PMI

独・ユーロ圏・英国 = 製造業 PMI

ユーロ圏 = 消費者物価指数

米国 = ADP 雇用統計

米国 = ISM 製造業景気指数

2月1日(水曜) 本日の主な経済指標と発表予定

7:30	AUD	1月	AIG 製造業指数=予想 前回 50.2
9:00	AUD	HIA	新築住宅販売=予想 前回 6.8%
9:30	AUD	第4四半期	住宅価格指数=前期比予想-0.6% 前回-1.2%、前年比予想-3.3% 前回-2.2%
10:00	CHN	1月	製造業 PMI=予想 49.6 前回 50.3
11:30	CHN	1月	HSBC 製造業 PMI=予想 前回 48.7
17:15	CHF	12月	小売売上高=前年比予想 前回 1.8%
17:30	CHF	1月	製造業 PMI=予想 51.0 前回 50.7
17:55	GER	1月	製造業 PMI・確報=予想 50.9 前回 50.9
18:00	EUR	1月	製造業 PMI・確報=予想 48.7 前回 48.7
18:30	GBP	1月	製造業 PMI=予想 49.8 前回 49.6
19:00	EUR	1月	消費者物価指数・速報=前年比予想 2.7% 前回 2.8%
22:15	USD	1月	ADP 雇用統計=予想 18.5 万人 前回 32.5 万人
0:00	USD	12月	建設支出=前月比予想 0.7% 前回 1.2%
0:00	USD	1月	ISM 製造業景気指数=予想 54.5 前回 53.9、支払価格=予想 49.8 前回 47.5

先週末(1月31日)の海外市場の動き

米国株価は下落(NY ダウ-20.81-0.16%)、欧州株は上昇(独 DAX+14.46+0.22%、英 FTSE+10.52+0.19%)、Spot.Gold は上昇(+6.10+0.35%)、Spot.WTI「Light Crude Oil」は下落(-0.69-0.70%)

◎ハンガリー国債入札は利回り低下し発行は計画を上回る→ EUR は堅調に推移

◎ベルギー国債入札は利回り上昇し発行計画を下回る→ 債券市場は安定していたが、EUR 売りの材料となる

◎ユーロ圏 12月の失業率 10.4%に上昇→ 11月が 10.3%→10.4%に上昇修正された数字と変わらずだが、1998 年来の高水準で、ユーロ売り材料にも動きは鈍い

◎米 10 年債、カナダ 10 年債利回り低下→ 安全資産の買いが強まり、米 10 年債利回り 1.804%(-0.4%-2.17%)、カナダ 10 年債利回り 1.897%(-0.41-2.10%)

◎USDCAD は GDP& 鉱工業製品価格が弱く急変→ 11 月 GDP は -0.1%と発表され、USDCAD0.9970 台→1.0050 台まで上昇(CAD 安)

◎米経済指標の悪化にリスクアセット下落→ 米シカゴ PMI は 60.2 で予想 63.0・前回 62.2 を下回り、雇用 54.7(前回 59.2)を下回る

◎米消費者信頼感指数は 61.1(予想 68.0・前回 64.8)から大幅低下、現況・期待指数も弱い→ 米株価は弱く、EUR&AUD は全面安、商品価格は低下へとリスクオフの流れが加速

◎31 日月末のロンドンフィキシングは EUR 売り→ 月末要因は EUR 買いではなく売りが多く、ロンドンフィキシング(午前 1 時)に向け EURUSD&EUR クロスの売りが続く

USDJPY

アジア市場は一時 76.40 近くまで値を戻したが、午後にはドル安の流れに 76.17 まで値を下げた。欧州市場はドル安の流れにもクロスでの円売りが強まり、76.20 以下を試すことはできず、EURJPY や GBPJPY の買いに 76.40 台まで上昇した。米国市場は、EUR 売りの流れに EURJPY が売りへと変化、米シカゴ PMI や消費者信頼感指数が弱く、76.15 台まで下落したが、実需の買いは厚く下げ止まりドル買いの流れに売り続かず、大枠 76.20~35 のレンジで取引が続いた。

EURUSD

アジア市場は、朝方の 1.3130 台を底値に、1.3200 近くまで上昇したが、海外勢の売りが続き 1.3180~00 の狭いレンジから、1.3170 台まで値を下げた。欧州市場は、一時 1.3160 近くまで値を下げたが、好調な欧州株価やリスクアセットの買いに、1.3213 まで上昇し、月末需要に実需筋の売り買いが交錯し大枠 1.3180~20 のレンジで取引が続いた。米国市場では、株価は弱くリスクアセットの売りが始まり、1.3180→1.3120 を割り込み、ロンドンフィキシングで月末要因も加わり、EUR はクロスを含め売りが加速し 1.3040 台まで続落、ようやく下げ止まり大枠 1.3060~90 で取引が続いている。

AUDUSD

アジア市場は、朝方の 1.0570 台を底値に実需筋の買いに底堅く、企業信頼感指数が強く、これを材料に 1.0620 台まで上昇、ギラード豪首相は豪ドル高の動きは好調な国内経済を反映と発言、IM の局長は、オーストラリアは他の大半の国よりも財政上の柔軟性があると発言、1.0640 台まで上昇、大枠 1.0620~40 のレンジで取引が続いた。欧州市場に入り、好調な欧州株価と、リスクアセットの上昇、鉱山会社の買いに 1.0680 台まで上昇、ファンド筋の売りに上げに上げ止まり 1.0650 割れまで値を下げた。米国市場では一時 1.0670 台まで上昇したが、リスクアセットが売りへ変わり、ロンドンフィキシングでは一時 1.0590 を割り込み、大枠 1.0590~1.0620 のレンジで推移した。

金・原油価格

- ◎クラッパー米国家情報長官(議会証言)、ハメネイ氏を含むイラン当局者は米国での攻撃実行に一段と積極的になっている
- ◎クラッパー米国家情報長官、中国はイラン産原油の購入を削減した
- ◎石油輸出国機構(OPEC)の原油生産が3年ぶりの高水準
- ◎メルケル独首相は今週中に中国にも輸入削減を求める計画がある
- ◎金相場は、旧正月休み明けの中国からの現物需要の回復も相場

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、朝方の98.82を底値に、前日NY市場の高値圏に並ぶ99.53まで上昇、投機筋の売りに上値を抑えられ、大枠99.20~40のレンジで取引が続いた。欧州市場に入り、好調な欧州株価とリスクアセットの上昇に99.95近くまで値を上げ、99.70~95のもみ合いから、100を超えると買いが加速、100.62まで続伸からファンド勢の売りに一時99.75近くまで値を下げた。米国市場は、イランとの緊張の高まりに101.20台まで上昇したが、リスクアセットの売りが強まると流れは急変し、98.25まで急落、一時99.00台を回復したが、97.85近くまで続落、終盤にかけては98.30前後での取引が続いた。

◎Spot.Gold

アジア市場は、1728台を底値に1737.2まで上昇、大枠1733~1738のレンジで取引が続いた。欧州市場にはいり、中東勢やアジア勢の買いに1740台まで上昇、好調な欧州株価とリスクアセットの上昇に1744台まで続伸、利食いの売りに1736台まで値を下げた。米国市場は、イランとの緊張の高まりに一時1747台まで上昇したが、リスクアセットの売りが強まり流れは急変し、1724台までの急落から、実需筋の買いに1740台を回復し、前日終値より小幅ながら上昇している。

昨日(1月31日)の主な発言・出来事

欧州関連	
	ハンガリー国債入札は計画を上回り、利回りは低下=◎3カ月物500億フォロント発行、計画50フォロント、平均落札利回りは7.41%(1月24日7.65%)を下回る
	ユーロ圏の失業率=アイルランド14.5%、ハンガリー10.9%、ポルトガル13.6%、スペイン22.9%、フランス9.9%、ギリシャNA、ドイツ5.5%
	ユンケル・ユーログループ議長=◎EU首脳会議で一部のドイツ提案は合意できなかったが、財政健全化へのユーロ圏諸国の真剣さが明確になった ◎予算均衡の規定を各国の法律に盛り込むことに合意したことで、約束を破ることはできなくなる
	FTドイツ版=◎ユーロ圏諸国の救済資金は、ESFSとESM、IMFの合計で総額1.5兆ユーロになる可能性
	ベルギー3ヵ月・6ヵ月物証券入札は計画を下回り、利回りは上昇=◎25.8億ユーロ発行、目標30億ユーロを下回る。3ヵ月物16.4億ユーロ、平均落札利回り0.506%(前回0.429%)、応札倍率2.7倍(前回2.24倍)、6ヵ月物9.4億ユーロ、利回り0.71%(前回0.364%)、応札倍率4.02倍(前回2.01倍)
	ユンケル・ユーログループ議長=◎ユーロ圏財務相会合を来週招集するか未決定

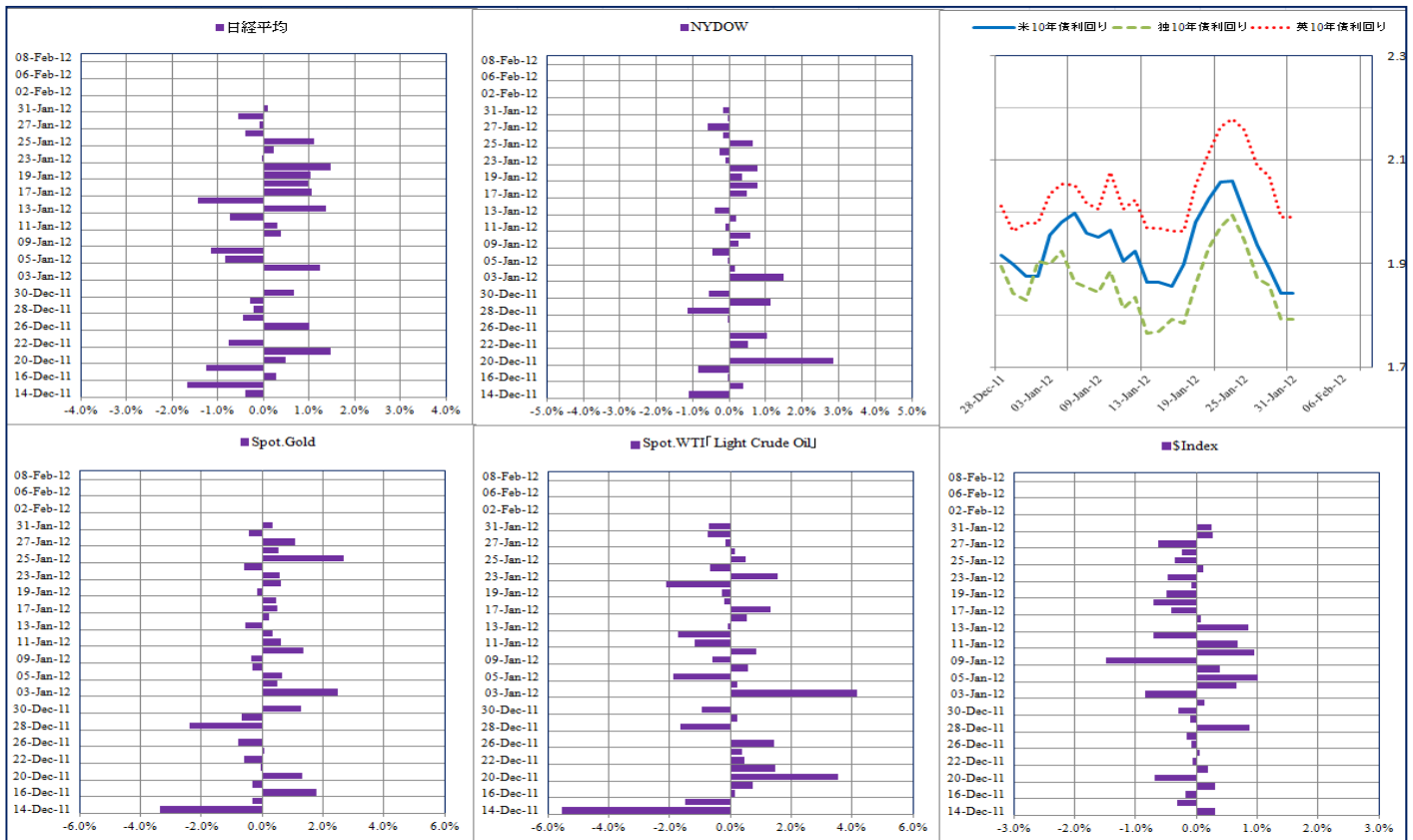
ギリシャ関連	
	ノボトニー・オーストリア中銀総裁=◎ユーロ圏の政策はギリシャが域内にことどまることを想定しているが、これはギリシャやメンバー国の一連措置で決まる ◎必要な措置が実施できることを望むが、現時点ではおそらく確実視することはできない ◎ギリシャと民間債権保有者の債務減免の交渉で、ECBが保有するギリシャ債にも当然リスクがある
	パパデモス・ギリシャ首相=◎債務交換で債券保有者との交渉が進展
	オニール・ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント会長=◎ギリシャは3月20日までに債権団と債務交換で合意に達する見込み ◎世界経済に対するギリシャの重要度を過大評価 ◎必要な安定は5月までに市場に戻る見込み
	ユンケル・ユーログループ議長=◎ギリシャと民間債権者は今週の合意が可能
	ベニゼロス・ギリシャ財務相=◎ユーロ圏財務相は2月6日に会合を開く ◎民間債権者との債務交換交渉は、最終合意まであと一歩で、新たな金支援のEU・IMFとの協議は週内の合意を目指す ◎債務交換交渉は純現在価値の70%損失を検討 ◎ギリシャ議会は2月13日に民間関与を採決 ◎第2次救済は2月5日までまとめる必要がある
	ボリス・スウェーデン財務省=◎ギリシャは救済条件の国有資産の民営化が遅れ公約を実行できず、救済資金のほとんどは無駄になった ◎国有資産500億ユーロの売却合意で達成したのは10億ユーロだけで、実行というものが欠落している
	ギリシャ・タネア紙=◎EU・IMFの代表団はギリシャに最低賃金を20%カットするように求めた ◎ギリシャ労働省は民間セクター給与の支給額を3年間凍結する案を提出、トロイカは拒否し、年2回のボーナスの削減や廃止を求めた

USD	米予算局(CB)予算と経済見通し=◎2012年会計年度(2011年10~2012年9月)の米財政赤字が前年の1.3兆ドルから減少し1.1兆ドルの見通しを示したが、4年連続で1兆ドルを超え財政赤字の規模は歴史的にみて、平均を大幅に上回る ◎米通期の経済成長率は2.0%と予想、失業率は8.5%→8.9%に上昇の可能性が高い
AUD	オーストラリアの企業景況感指数は前回と変わらず、企業信頼感指数は7カ月来の高水準
AUD	ギラード豪首相=◎豪ドル高は好調な国内経済を反映
AUD	IMF 局長=◎オーストラリアは他の大半の国よりも財政上の柔軟性がある

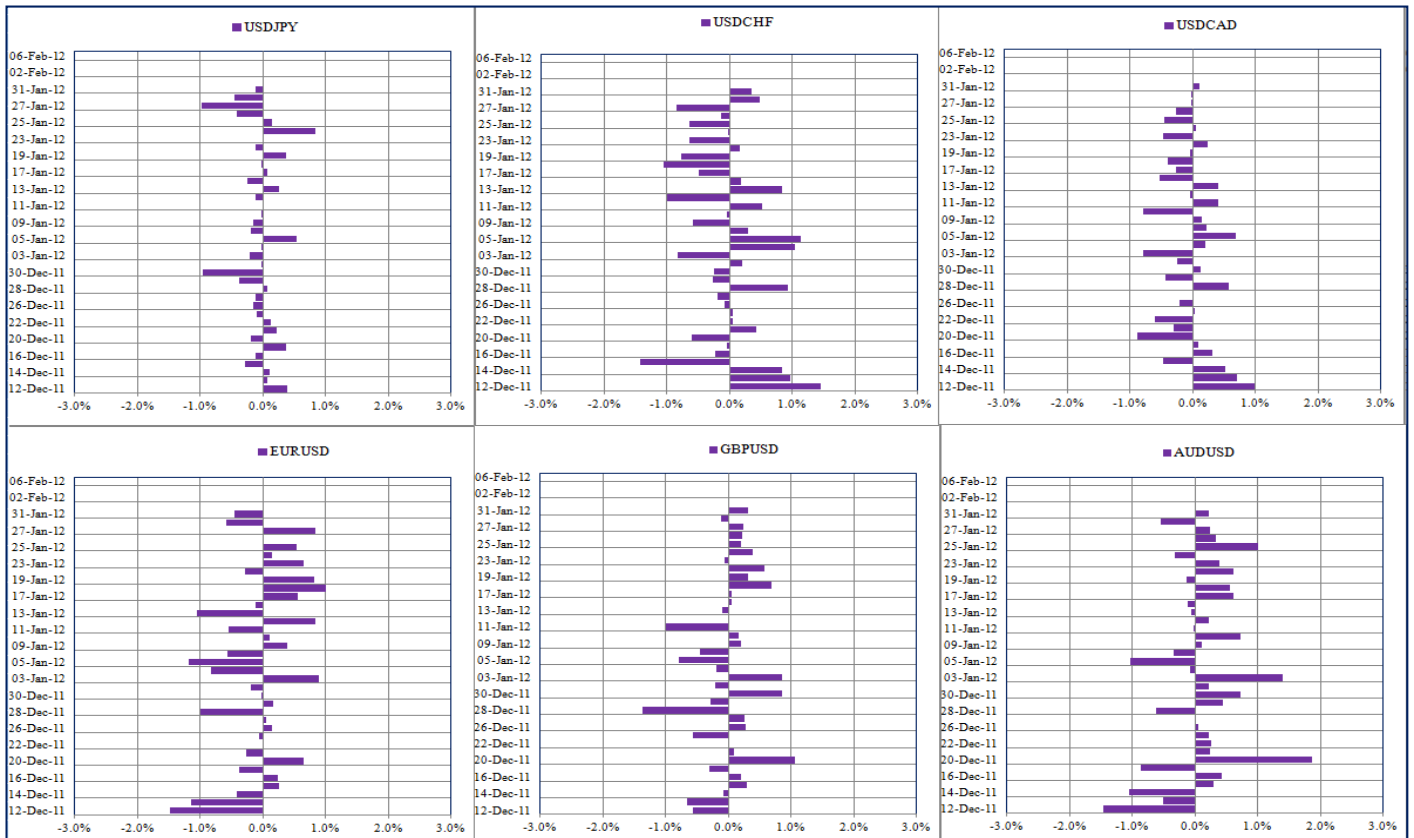
昨日(1月31日)の経済指標と結果

6:45	NZD 12月 住宅建設許可=前月比2.1%(予想8.0% 前回-6.2←-6.4%)
8:30	JPY 12月 失業率=4.6%(予想4.5% 前回4.5%)、有効求人倍率=0.71(予想0.70 前回0.69)
8:50	JPY 12月 鉱工業生産・速報=前月比4.0%(予想2.9% 前回-2.7%)、前年比-4.1%(予想-5.0% 前回-4.2%)
9:01	GBP 1月 GFK 消費者信頼感調査=-29(予想-32 前回-33)
9:30	AUD 12月 NAB 企業景況感指数=1(予想 前回1)→ 欧州債務危機の影響で横場い、企業信頼感指数=3(予想 前回2)→ 過去7カ月らしいの高水準
16:00	GER 12月 小売売上高指数=前月比-1.4%(予想0.8% 前回-1.0←-0.9%)、前年比予想-0.9%(予想0.9% 前回0.9%)
17:55	GER 1月 失業率=6.7%(予想6.8% 前回6.8%)、失業者数=-34000人(予想-5000人 前回-25000人←-22000人)
18:30	GBP 12月 消費者信用残高=-4億ポンド(予想-4億ポンド 前回4億ポンド)
18:30	GBP 12月 住宅ローン承認件数=52900件(予想54000件 前回52600←52900件)
19:00	EUR 12月 失業率=10.4%(予想10.4% 前回10.4←10.3%)→ 前月が上昇修正され、1998年来の高水準
22:30	CAD 12月 鉱工業製品価格=前月比-0.7%(予想-0.1% 前回0.3←0.2%)、原材料価格指数=-2.4%(予想0.0% 前回3.8%)
22:30	USD 第4四半期 雇用コスト指数=前期比0.4%(予想0.4% 前回0.3%)
22:30	CAD 11月 GDP=前月比-0.1%(予想0.2% 前回0.0%)
23:45	USD 1月 シカゴ購買部協会景気指数(PMI)=60.2(予想63.0 前回62.2)、新規受注=63.6(前回67.1)、雇用=54.7(前回59.2)、仕入価格=62.4(前回63.8)
0:00	USD 1月 消費者信頼感指数=61.1(予想68.0 前回64.8←64.5)、現況指数=38.4(前回46.5←46.7)、期待指数=76.2(前回77.0←76.4)

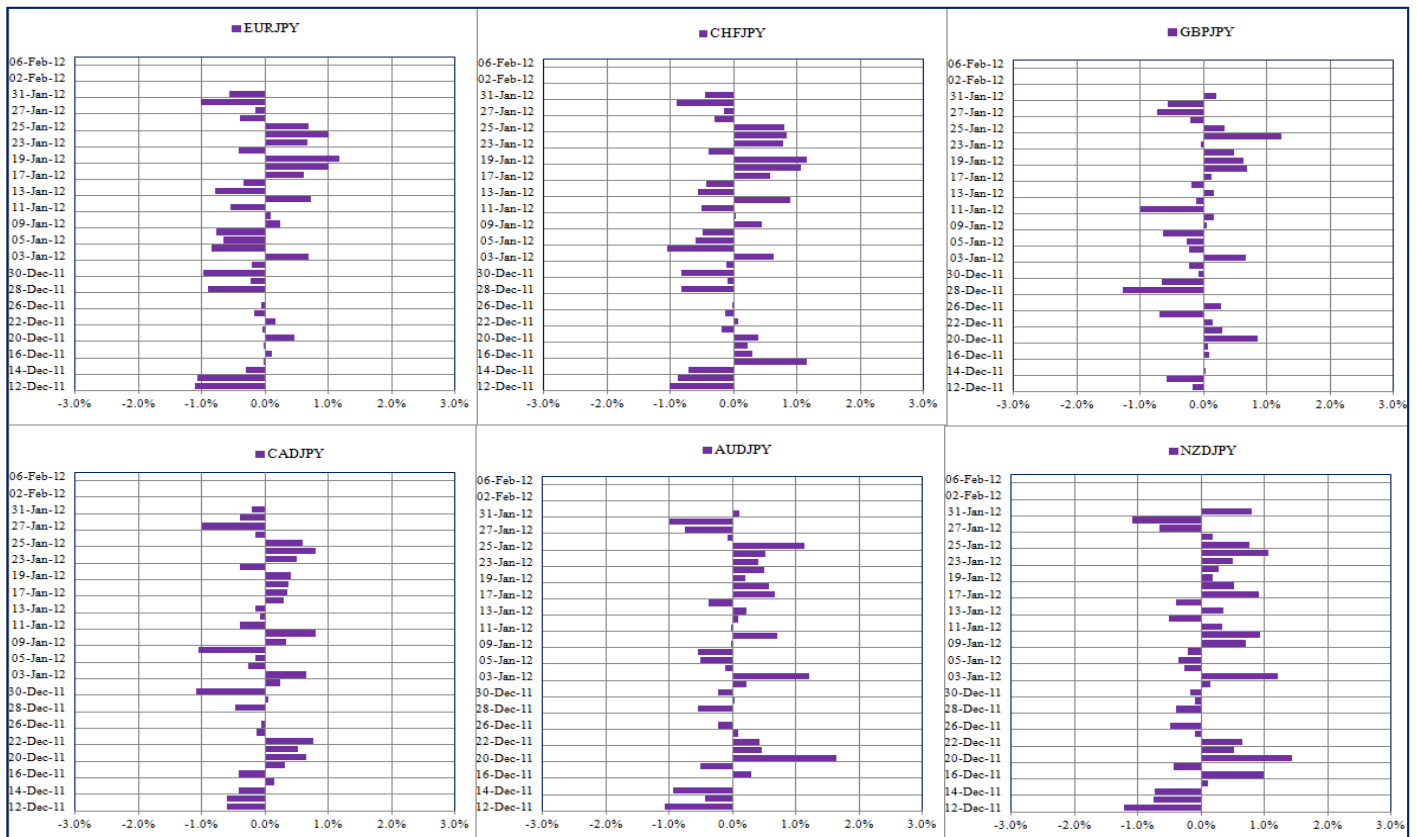
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011